

冷房育苗によるパンジーの安定生産技術

農業試験場

研究のねらい

秋出しのパンジーの育苗は 7~8 月を中心とした真夏に行われますが、高温による生育不良が起こりやすく、大きな問題となっています。そこで、クーラーを用いて育苗施設内を涼温に保つ冷房育苗を導入し、安定生産を図ります。

研究の成果

- ① 冷房育苗によりパンジーの生育は良好となり、慣行育苗において 55%程度とされる成苗率（播種数のうち、正常に生育して鉢上げに至る苗の割合）が 85%程度に向上します（写真 1、写真 2）。
- ② 冷房育苗時には、昼間 28℃、夜間 23℃とすることで十分な冷房効果が得られます（図 1）。
- ③ 冷房の効果は、播種してから本葉が見えるまでの約 3 週間冷房することで安定します。
- ④ 冷房育苗時には、育苗施設全体を遮光率 65%程度に遮光し、電気代の節約を図ります。
- ⑤ 冷房育苗を行った苗の鉢上げ後の生育も良好です。

成果の活用面・留意点

- ① 気象条件に左右されない安定した育苗が可能となり、計画的な苗生産が行えます。
- ② 成苗率の向上により種苗費が削減し、冷房に必要な経費を差し引いても収益増加が見込まれます。



写真1 冷房育苗の様子

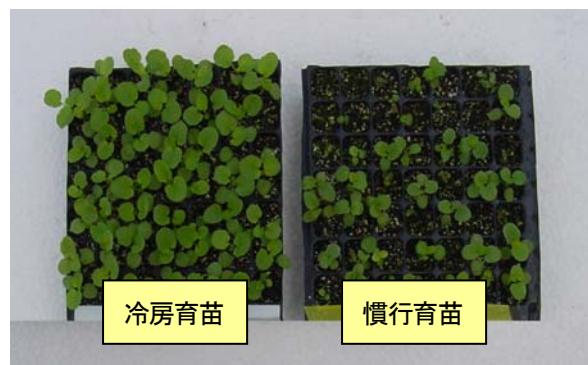


写真2 冷房育苗の効果

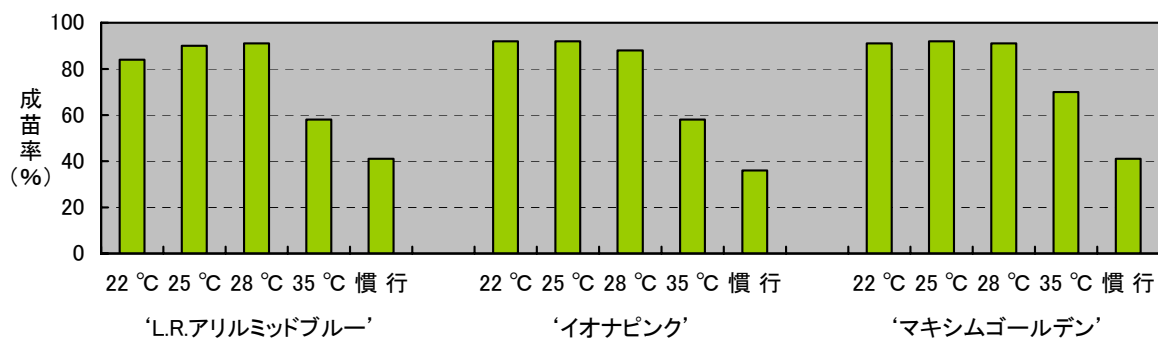


図1 冷房育苗時の昼間温度とパンジーの生育